

2020年11月10日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【米国大統領選挙が終了】

米国大統領選挙が、ほぼ終わった、と言って良いのだろう。

来年の1月20日に、バイデン候補が、新大統領の就任式に出ることになる、と考えて良いのだろう。

もちろん、報道されているように、トランプ現大統領は、法廷闘争に持ち込む意向のようだが、裁判に訴えても、バイデン候補の選挙勝利を覆すことには、無理がある。

世界情勢を見ても、バイデン氏が新大統領になることを認めている様子だ。

これで、米国大統領選挙のテーマは終了と考えている。

今後は、

「バイデン新大統領の政策が、マーケットにどのような影響を与えるのか？」
を考えていくことになる。

昨日(11月9日)の米国株式市場は、大幅に上昇し、ダウ平均株価は、終値で、29,000ドルを超えた。

ダウ平均株価の30,000ドルが視野に入った、と言えるのだろう。

ただし、今回の株価の上昇は、バイデン新大統領が決まったことへの「ご祝儀相場」と考えている。

このところの株価の上昇は、概して、世界中で採択された金融緩和策の結果、金余り現象が起こり、行き場を失った資金が、それぞれの株式市場に流れ込んでいることで起こっている、と考えている。

もちろん、株価が上昇したことは事実であり、それが悪いと言っている訳ではない。

ただし、現在は、世界中で、新型コロナウイルスへの感染問題が起こり、各国の経済は、壊滅的な状態になっている。

そういった情勢の中で、利益が上がっていないのに、株価だけが上昇しているのは、矛盾しているし、先々に、リスクが潜んでいる、と考えている。

外国為替市場は、今回の米国大統領選挙で、それなりに上下動をした、と考えているが、概して言えば、方向性の無いフラクチュエーション（上下動）の域を出ない。

気を付けなければいけないことは、今後、すぐに、クリスマス相場、年末相場が来ることだ。

クリスマス相場、年末相場は、無理をせずに流して、来年になれば、バイデン新大統領の政権が始まることを踏まえて、エネルギーを蓄えておきたい、と考えている。

+++++

(2020年11月10日東京時間13:20記述)